

## トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（7月中下旬）

### 1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図1）。果実での発生も確認されています。過繁茂など多湿条件になると発生しやすいため、換気を十分に行ってください。

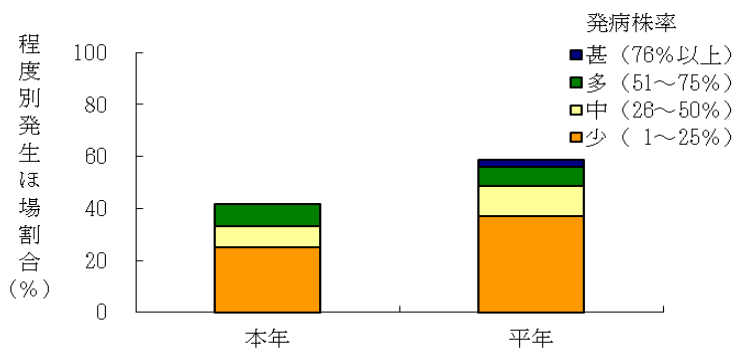


図1 灰色かび病の発生状況

### 2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図2）。過繁茂など多湿条件になると発生しやすい条件となるため注意してください。葉かび病抵抗性品種もありますが、これらの品種を侵す菌のレースが存在しますので、抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。また、葉かび病と病徴が類似しているすすかび病を確認して薬剤を選択してください。

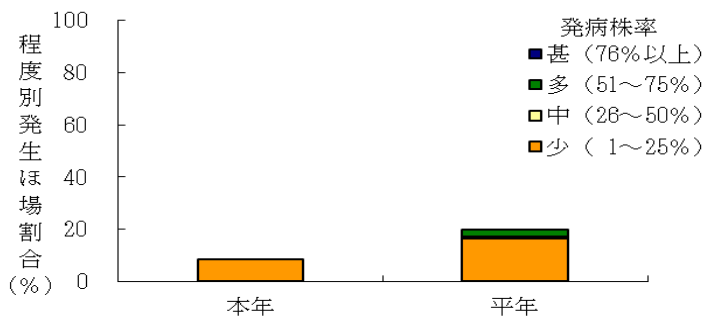


図2 葉かび病の発生状況

### 3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合平年並でした（図3）が、CMVの発生が確認されています。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類はウイルス病を媒介するので注意が必要です。

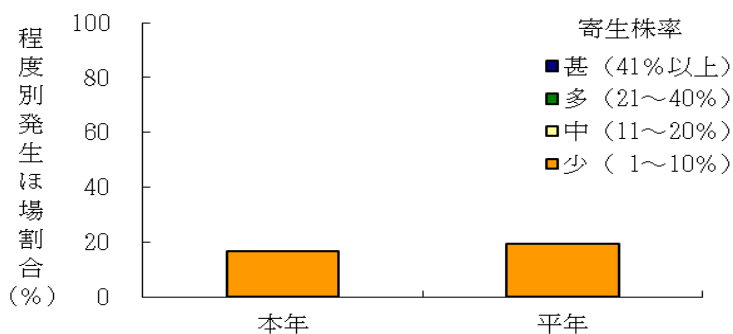


図3 アブラムシ類の発生状況

#### 4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください（病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」をご覧ください）。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

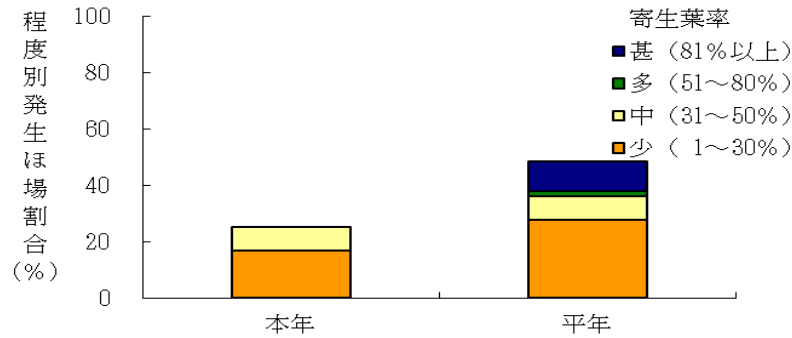


図4 コナジラミ類の発生状況

#### 5 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図5）。防虫ネットの設置が定着していますが、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施してください。また、アザミウマ類は、TSWVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

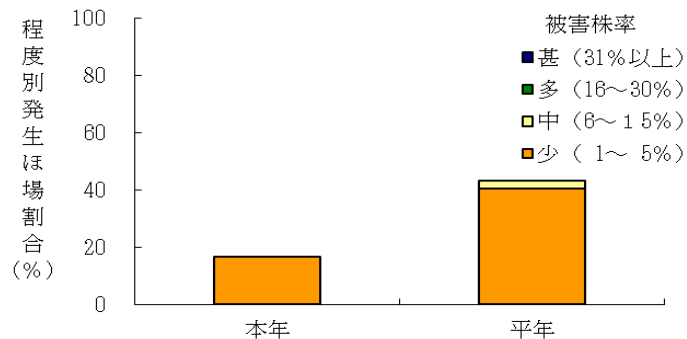


図5 アザミウマ類による被害果実の発生状況

#### 6 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図6）。まん延すると防除が困難となるので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

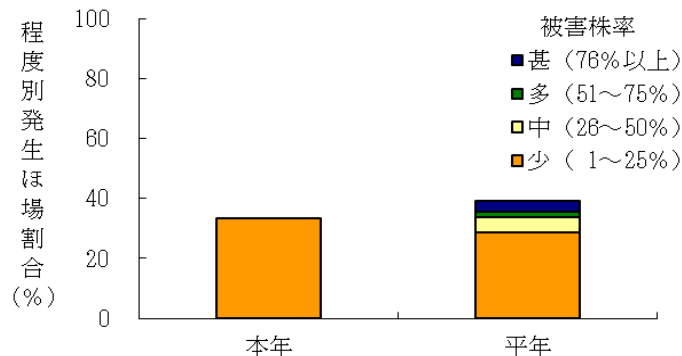


図6 ハモグリバエ類の発生状況

## 7 オオタバコガ

巡回調査において、生長点・果実への寄生が確認されています。フェロモントラップ調査では、中通り北部で誘殺数がやや多くなっています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

### 注意が必要な病害虫

#### ■ トマトかいよう病

本年もほ場での発生が確認されています。本病は種子や土壌中の残渣に生存している病原細菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。発病が疑われる株は管理作業を後回しにし、作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害拡大を防ぐようにしてください。万が一、ほ場で発生した場合は、発病株を速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。

#### ■ タバココナジラミとトマト黄化葉巻病

本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、また、オンシツコナジラミ等による虫媒感染はしません。育苗期から媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。抑制栽培や冬春トマト等これから作付けが始まる作型では、持ち込み等がないよう注意してください。

本病の発生を認めた場合、侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くないように発生初期から適切な防除を行ってください。また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。

病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。



写真1 TYLCVに感染したトマトの症状



写真2 タバココナジラミ蛹

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp